# 竹田陽一の経営随筆集

2022 年 5 月 10 日　第 11 号

## 良い本・悪い本・普通の本　　その７

### ８．　中心部分の本質を掘り下げて研究してない

　悪い本の７番目はその本の重要な部分を、掘り下げて研究してないことがあげられます。テーマによっては、実態調査ができないものがあります。
　しかしこの場合でも、外の人と同じような文章を書いてお茶を濁すのではなく、大事なところについては「思索につぐ思索」を重さねるとともに、２段も３段も掘り下げて研究し、他人が気付かなかった本質や原則を、考え出すようにすべきです。
　もちろん本に書いている文章、全てにおいてこうすることはできないにしても、「中心となるテーマ」のいくつかについては、こうすべきでしょう。では私の体験を１つ紹介しましょう。

### ａ．　経営分析は項目の数が多すぎる

　経営分析のやり方を説明した本は、これ迄会計の専門家が何千冊も出版しているでしょう。だいぶ前になりますが仕事が一段落したとき、なにげなく近くに置いていた経営分析の本を手にして、中を見ました。この本には経営分析の項目が、30 項目近くも書かれていました。そのとき「なんでこんなに多く分析が必要になるのか」、「これでは中小企業の社長から嫌われるのは当然だ」と思いました。

　そのときふと、これらの分析は「誰のために役立つのか」、「なんのためにこれがいるのか」、「用途別に分けてみるべきだ」と、ヒラメいたのです。そこでさっそくこの作業に取り組んだところ、次のようになりました。

　１つ目は、銀行の融資係や審査係用です。
ちなみに銀行には、融資先の決算書が数多くあるので、本店で才能のある人がこのデータを利用して、融資の判断に役立つ方法を考えているはずですから、会計の専門家やコンサルタントが、これらを考えてやる必要はないでしょう。早く言えば、余計なお世話になるのです。

　２つ目は、株を買うなどの投資家用です。
これも銀行の分と同じで、余計なお世話になるでしょう。

　３つ目は、信用調査用です。
これは粉飾決算の見破りが中心になります。

　４つ目は、中小企業社長の経営用です。

　５つ目は、従業員の教育です。

### ｂ．　中小企業の社長用は意外に少ない

　このあとよくよく考えてみたら、銀行の融資係用と投資家用の項目は多くあるものの、中小企業の社長用はごくわずかで、従業員の教育用にいたっては、ゼロ同然であると気付きました。しかも中小企業の社長にとって、特別重要になるものが落ちていたのです。

　それは、「自己資本比率、従業員１人当たりの自己資本額、固定比率、総資本回転数」が、ここ迄悪くなると資金繰りが苦しくなり始めるという、「注意点」と、ここ迄悪くなると実質上倒産状態になるという、「危険値、または下限値」を、数字によってはっきりと示している本が、１冊もなかったのです。

　このあと倒産会社の決算書をいくつも分析し、さらにランチェスター法則を応用して、これらの数値を考え出しました。私にとっては大発見でした。これらの注意点と、下限値の２つが解れば、中小企業の社長が設備投資をするとき、資金計画の立案に役立ちます。

以下は、次号に続く。

＜参考＞これらについてもっと詳しく知りたい方は、ホームページの教材一覧「本格派用のフルライン」にある「財務戦略」を見て下さい。
ランチェスター法則による、財務戦略教材。本格派用。
「資金と経費戦略」
ＤＶＤ４巻。４時間 21 分。テキスト付。定価 69,300 円(税込)
詳しい内容は、こちら→　https://www.lanchest.com/fullline07/

ランチェスター経営（株）
〒810-0012　福岡市中央区白金 1-1-8　チュリス薬院 301
TEL　092-535-3311　FAX　092-535-3200
メールアドレス customer@lanchest.co.jp　HP　https://www.lanchest.com